

令和3年度外郭団体活動状況評価シート No.1

【令和3年3月31日時点】

団体名		公益財団法人 千里リサイクルプラザ				所管部室(課)名		環境部 環境政策室			
所在地		〒565-0826		吹田市千里万博公園4番3号 吹田市資源リサイクルセンター内							
設立年月日		平成4年3月16日(財団法人設立)		代表者職・氏名		理事長 門脇 則子					
基本財産		963,280,000円		①本市出資金(本市の出資割合)		円(%)					
				②本市出捐金(本市の出捐割合)		538,800,000円(約56%)					
設立目的	地球環境保全の重要性にかんがみ、地球温暖化の防止等を含む循環型社会の構築・推進に関する事業を展開し、もって持続可能な社会への転換に寄与することを目的とする。										
事業内容	(1)啓発・普及活動等に関する事業 (2)市民研究等に関する事業 (3)講演・講座の開催等教育に関する事業 (4)その他本法人の目的を達成するために必要な事業				(具体的な事業内容) (1)市民工房の運営 (2)視察・見学者の応対 (3)見学ツアーの開催・吹田市主催等のイベントへの参画 (4)脱温暖化・展示に関する事業 (5)市民企業参画事業・実践教室・イベントの開催 (6)市民研究員の調査・研究及び実践活動 (7)学校の環境学習の支援・出前講座の実施 (8)講演会・入門講座・研修講座・環境学習発表会及び展示発表会の開催等						
			合計(市職員及び元市職員以外も含む。)						合計(元市職員以外も含む。)		
			うち市職員		うち元市職員					うち元市職員	
役員数(人)	理事 (取締役)	常勤	1	0	1	職員数(人)	常勤	5	0		
		非常勤	8	1	2		再任用(※1) 常時勤務	0	0		
	監事 (監査役)	常勤	0	0	0		再任用(※1) 短時間勤務	0	0		
		非常勤	2	0	1		非常勤	4	0		
65歳以上の役員数(※2) (人)		8		3	臨時 雇用員	34					
評議員 (人)		9	2	0	65歳以上の職員数 (※2)	22	0				
元市職員に対する報酬や給与水準が、市再任用職員の水準を上回る。(いずれかに○)						該当 ・ 非該当					
【該当する場合のみ記載】内容											
元市職員に対して退職金を支給している。(いずれかに○)						該当 ・ 非該当					
【該当する場合のみ記載】内容											

※1 再任用職員とは、60歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている職員をいう。

※2 65歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている役員数又は職員数。

令和3年度外郭団体活動状況評価シート No.2

【令和2年度決算】

団体名		公益財団法人 千里リサイクルプラザ		所管部室(課)名		
				環境部 環境政策室		
財務状況(円)	損益計算書	総収入	70,716,360	貸借対照表	資産の部合計	1,255,815,018
		(うち市受入金)	50,407,291		負債の部合計	7,643,242
		(その他)	20,309,069		(うち有利子負債)	
		総費用	67,783,223		正味財産合計	1,248,171,776
		経常損益	2,933,137		(うち一般正味財産)	21,675,776
		当期損益	2,933,137			
市から団体への支出(円)	主な内容、算出根拠等					
	フロー	補助金				
		委託料				
		指定管理料	50,407,291	吹田市資源リサイクルセンター指定管理委託料		
		その他				
		計	50,407,291			
	ストック	貸付金残高				
		債務保証残高				
		損失補償残高				
		出資金(出損金)	538,800,000			
		その他				
計		538,800,000				

令和3年度外郭団体活動状況評価シート No.3

【評価対象期間:令和2年4月1日から令和3年3月31日まで】

団体名	公益財団法人 千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名
		環境部 環境政策室

1 団体による評価

(1) 運営に関する評価

◎→できている ○→概ねできている △→一部できている ×→できていない

指針の項目	評価項目	評価	評価の理由
組織及び人事管理	規程等を適切に整備している。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに令和3年度より特定費用準備資金等取扱規則を制定し、併せて財務会計規則、情報公開規則の関連条項を整備。 ・平成20年度から続く嘱託職員での運営体制を維持。 ・理事数は9名体制を維持。 ・令和2年度は2名の嘱託職員を公募による競争試験により公正に採用。 ・吹田市再任用職員給与水準を参考に嘱託職員給与額を決定。 ・コロナ禍で研修機会が著しく限定される中、あらたにオンライン施設見学(平塚市環境事業センター、かいのくにエコパーク)を実施。
	団体の事業規模に応じた簡素で効率的な執行体制としている。	◎	
	団体の事業規模や経営状況に応じた役員数及び職員数としている。	◎	
	採用における公正性・透明性を確保している。	◎	
	団体の経営状況に応じた役員報酬や職員給与としている。	◎	
	職員研修の充実に努めている。	○	
事業運営	事業の必要性や意義を見直しつつ、効果的、効率的な事業運営を行っている。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で不特定多数が集うイベントは実施不可となったが、事前予約で人数や個人を特定できるワークショップ形式で代替実施。 ・アンケートを駆使し市民ニーズの把握に努め事業運営に活用。
	事業を継続的に点検し、市民ニーズに沿ったものとしている。	○	
財務管理	中・長期的な経営計画を策定している。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度策定の財団中期計画につき毎年、成果達成状況を総括している。また令和4年度から5年間を対象とする新たな中期計画を策定準備中。 ・公益事業ヘリソースを集中しており、財源確保を目的とする収益事業は継続検討中。 ・定額の受託事業経費の中で、事業費確保のため人件費をはじめとする諸経費の抑制を徹底。 ・安全性と利率で有利な長期国債(20年、30年物)が中心。 ・公認会計士の監査、評議員会の意見具申による体制強化を継続。
	自主財源の確保に努めている。	△	
	各種経費を可能な限り抑制している。	◎	
	最も確実かつ有利な方法で財産の管理運用を行っている。	◎	
	外部の専門家による監査を活用するなど監査体制の強化に努めている。	◎	
情報公開	団体の経営状況、事業計画を公開している。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・財団HP上で経営状況、事業計画、中期経営計画進捗状況を公開。 ・財団HP上で役員名簿、評議員名簿、会議録(議事録)を公開。 ・HP、SNS(twitter, facebook)、情報公開コーナーで情報提供。 ・個人情報保護法に基づく日常業務遂行の徹底。
	団体の役員名簿、会議録等を公開している。	◎	
	ホームページをはじめとする多様な手段で情報提供を行っている。	◎	
	個人情報保護に関する措置を適正に講じている。	◎	

令和3年度外郭団体活動状況評価シート No. 4

【評価対象期間:令和2年4月1日から令和3年3月31日まで】

団体名	公益財団法人 千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名
		環境部 環境政策室

(2) 事業に関する評価

ア 指標による評価

事業名	活動指標	令和2年度目標	令和2年度実績	(参考) 令和元年度実績
	成果指標			
啓発・普及活動に関する事業(市民工場の運営)	市民工房実技指導者数の拡大	利用者数拡大によるリユース・リメイク普及	コロナ禍の影響を極力排除した普及	コロナ禍の影響を極力排除した普及
	市民工房実技指導者数(1開館日あたり)	対前年度比増	12.7人/1開館日(5.2%減)	13.4人/1開館日
啓発・普及活動に関する事業(実践教室の開催)	受講者数の拡大	来館による認知度向上	コロナ禍の影響を極力排除した認知度向上	コロナ禍の影響を極力排除した認知度向上
	受講者数	対前年度比増	796名(24.4%増)	640名
啓発・普及活動に関する事業(脱温暖化啓発)	環境啓発動画コンテスト参加者の拡大	参加者数拡大による脱温暖化他の啓発・普及	参加作品の質・数の充実	参加作品の質・数の充実
	参加作品数	対前年度比増	34作品(47.8%増)	23作品

イ 指標で示すのが困難な場合

事業名	活動内容	成果内容
プラザの全事業	令和2年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、社会・経済活動が停滞する状況の中、プラザの事業についてもコロナ禍の影響回避は困難な状況であった。事業は当初の予定からリスケジュール対応や不特定多数の参加の未然防止策として事前予約制度での人数把握や緊急時の追跡対応を可能にする個人の連絡先の情報確保等、細心の注意を払い可能な限り実施対応に努めた。	くるくる環境スクールはコロナ禍の休館時を回避し、講座回数を9回から6回に減じて実施した。資源循環の一助となる再生家具については3密となるオークションが出来ず、HP上に写真を掲載し抽選販売に切り換えて代替実施した。

(3) 今後の取組方針

※(1)において◎以外とした事項、課題となっている事項について重点的に記載

現状、引き続き新型コロナウイルスの影響は事業の実施に大きな影を残しているが、今後は来館者数の把握や拡大策として実来館者に加え、くるくるプラザHP訪問者等のIT利用者を仮想来館者としてカウントすることが時代の要請であると考えている。また環境問題が社会、経済とともにSDGsの中核をなす課題であるとの認識をベースに、吹田市の第3次環境基本計画との擦り合わせを行いながら、今後の環境啓発事業を立案し取り組んでいく。自主財源については、助成金の獲得や環境に係る委託業務の受注を目指した収益事業について検討し、実現に向けた整備を進めたいと考えている。出捐金の運用については、現行の中長期国債での運用を上回る利率を持ち且つ低リスクの金融商品の情報収集に継続して努めていく。

令和3年度外郭団体活動状況評価シート No.5

【評価対象期間:令和2年4月1日から令和3年3月31日まで】

団体名	公益財団法人 千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名
		環境部 環境政策室

2 市による評価

◎→できている ○→概ねできている △→一部できている ×→できていない

(1) 団体の運営に関する評価

事項	評価項目	評価	評価の理由
団体の存在意義	市民福祉の向上に資する事業を行っている。	◎	循環型社会及び低炭素社会の形成に向けて、市からの受託事業に加え、多様な自主事業を実施しており、市民に対するごみ減量・再資源化の啓発や本市第3次環境基本計画に掲げる重点戦略の推進などに貢献しているため。
	事業の成果が市の施策の推進に貢献している。	◎	
事業実施主体としての妥当性	市が直営で行うよりも効果的かつ効率的にサービスを提供している。	◎	資源リサイクルセンター開設時より管理運営を担ってきた実績やノウハウを活用し、環境スクール、市民研究員による研修講座など、団体独自の事業を実施しており、来館者数の拡大やサービスの提供内容の充実を図っているため。
	多くの市民の理解が得られる活動を行っている。	◎	

(2) 団体の自己評価に対する市の見解

平成29年度から令和3年度までの5年間を計画期間とする中期計画書を団体において策定し、認知度の向上や集客力の強化等を基本方針として掲げ、PDCAサイクルに基づく事業評価と進行管理を行う中で施設の魅力を多方面に発信している。事業の開催結果や中期計画の進捗状況等については、市と団体で実施している連絡調整会議(年6回)の場において報告を受けている。

令和元年度以降においては、これまでの取組の充実化や新規取組を実施したことにより、若年者層の取り込みや新たな来館者の獲得に一定の成果を上げており、団体の自己評価は妥当であると判断できる。引き続き、認知度の向上や集客力の強化に向けて、積極的に取組を進めていただきたい。

(3) 市の関与に関する今後の方向性

(公財)千里リサイクルプラザは、資源リサイクルセンターの運営団体として、府、吹田市及び137社(者)の民間団体等からの出捐金を受け設立され、本市からも538,800千円を出捐している。

平成4年のセンター開設時よりその運営を担っており、平成18年度の指定管理者制度導入後は、市からの受託事業に加え、出捐金の運用益を活用した様々な自主事業を実施し、指定管理者として長期間、安定的な運営を行ってきたという実績がある。

こうした団体の設立経緯や、市との連携体制を維持しながらの管理運営や事業展開を行ってきた実績を踏まえ、今後も積極的に団体との連携の強化を図るものとする。